

映画上映会

戦争を知っている世代はもちろん、戦争を知らない世代にこそ、ぜひ見ていただきたい映画です。

2008年制作・工藤充 演出・羽田澄子 120分 自由工房作品
2008年キネマ旬報文化映画ベストテン第1位
2008年日本映画ペンクラブ文化映画ベスト1
2008年東京国際女性映画祭オープニング作品



■開拓団の人たちが
トラックの窓に手をかけて
「乗せてってくれ」って。
それを振り払って
行っちゃうんだから。



■満州に行くときは
皆「国のため」と行ったの。
あんな遺骨を見ると
残念で。



(■コメントは出演者の証言です。)

■妹は最後に
「お芋食べたーい、
お芋食べたーい」
と言っている間に
連れて行かれた。



■今でも誰か官僚に聴きたい
なんで私たちを
満州に送り出したのかって。

満蒙開拓団についての映画について

羽田澄子

私は旧満州の一部とみられていた関東州の大連に生まれ、小学校も女学校も旅順。そして戦後、引き揚げてきました。しかし、同じ満州でも最南端の都会に暮らしていた私は、戦後、満州の奥地で起きていたことを知りませんでした。知るようになったのは1981年「中国残留孤児」の訪日調査が始まり、さらに2002年に中国「残留孤児」国家賠償請求訴訟がはじまったことがきっかけでした。裁判がどうなるかと見守っている間に、中国東北方の方正（ほうまさ）県にある「方正地区日本人公墓」のことを偶然知ることになりました。方正地区には、ソ連軍の満州進駐、日本の敗戦によって、満州の奥地から多くの開拓民が避難してきてここで数千人の人が亡くなっているのです。「この人たちの遺骨をお墓に」と願った、ある残留婦人の思いを受け止めたのは中国の周恩来総理でした。周恩来の指示によって、中国方正省政府が建設したのが「方正地区日本人公墓」なのです。「お国のため」と送り込まれた満州移民は、敗戦によって、遺棄されたも同然となりました。その体験者の多くはすでに亡くなっていますが、多くの方に取材し、日本の近代史を振り返り、日中友好が大切であることを考えました。

嗚呼 満蒙開拓団

羽田澄子演出作品

—— ああまんもうかいたくだん

あなたは満蒙開拓団の悲劇を知っていますか。
なぜ、この悲劇は起きたのか。

満蒙開拓団とは、1931年の満州事変以後、日本政府の国策によって、中国大陸の旧満州、内蒙古に入植させられた日本移民のこと。1945年の太平洋戦争敗戦までに送り込まれた開拓団員は約27万人とされている。しかし、その内の8万数千人が、ソ連参戦、日本の敗戦によって、帰国できずに亡くなっている。



平成22年9月26日（日曜日）

午前10時・午後2時・午後6時（3回上映）

（開場9時30分）（開場1時30分）（開場5時30分）

定員 / 各回200名（定員になり次第締め切らせていただきます）

場所 / パワーセンター白鷹（白鷹勤労者総合福祉センター）

前売り券 / 大人 ¥1,000 高校生以下 ¥300 当日券 / 大人 ¥1,200 高校生以下 ¥400

*前売り券取り扱い 教育委員会、中央公民館、各地区公民館、パワーセンター白鷹

主催：白鷹学講座企画委員会 / 白鷹活動写真倶楽部 / 白鷹町中央公民館 / 白鷹町教育委員会

後援：白鷹町老人クラブ連合会 / 白鷹町婦人会

お問合わせ 教育委員会 生涯学習係 TEL85-6147